

「落としたらすぐに掛かっちゃって、わけ分からないうちに釣れちゃいました」と謙遜するが3.5キロを釣り上げられたのはやはり実力ですよ。「イワシの反応が入ってきてますよ」とのこと。魚探を拝見すると、画面いっぱいに見つ赤ないワシの反応が映し出されている。

**Tackle Guide**  
PEラインの道糸とリーダーを直結するところまで巻き込むことができ、取り込みしやすくなるのでおすすめ。竿先の破損防止にもなる。

「こっちで上がりましたよ」とさっそく声がかかる。カメラを片手に右舷に回ってみると、堂々サイズのヒラメがデツキに横たわっていた。下船後検量3.5キロ。釣り上げたのはレンタルタックルで初チャレンジ、ミヨシ2番の鈴木さん。「落としたらすぐに掛かっちゃって、わけ分からないうちに釣れちゃいました」と謙遜するが3.5キロを釣り上げられたのはやはり実力ですよ。「イワシの反応が入ってきてますよ」とのこと。魚探を拝見すると、画面いっぱいに見つ赤ないワシの反応が映し出されている。

次はアタリを得たのは左舷大ドモの小宮山さん。ソゲ級ながらも1枚目をキャッチ。ほぼ同時にヒットした左舷ミヨシ2番の森泉さんは引き込みからしてサイズがよさそう。慎重なやりトリの末、船長が差し出すタモに無事収まったのはこれまた3キロは超えていそうグッドサイズ。「反応はありますからね。アタリがこなければ巻き落としみてください」ヒラメは上から落ちてくるエサに反応を示すので、アタリが遠いときはいったん4〜5メートル巻き上げて落とし

▼この日は2.5〜3キロ級がアブレーション



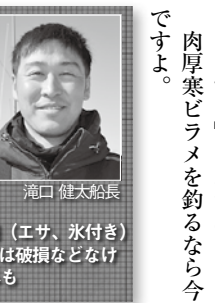
中盤はしばしの中だるみ状態。場所を転々と変え水深5メートルの超浅場まで探ってみるもノーヒット。ポイントを移動しイワシが着いている岩船沖に集結する船団に合流。海面からも見えるほどイワシが湧いている状態だが、潮が流れないところ

**当日最大は4キロ級**  
船長が差し出す大タモに収まったのは下船後検量ジャスト4キロの大判サイズ。ほぼ同時に、朝一に3.5キロを釣った鈴木さんに2.8キロ。「今度はアタリから合わせも決まり、釣った実感が湧きました」と実にうれしそう。胴の間の安田さんが5枚目となる2.5キロを釣り上げる時、

直すのもテクニクの一つだ。その効果か、右舷大ドモの彦山さんにヒット。1.5キロサイズが取り込まれた。30分ほどの流しでソゲサイズを含む6枚のヒラメが取り込まれる。回り直すここでは右舷胴の間の安田さんの竿にアタリ2キロ近いサイズが取り込まれると、お仲間の田辺さんも負けじと同サイズをゲット。釣れ上がるヒラメはイワシをたっぷりと食べているからか、どれも背肉が盛り上がりたこれぞ寒ビラメといった肉厚体型だ。

も魚の活性は落ちるものなのだろう。結局この場所ではヒラメからのラブコールはなく、再び大原沖に舵を切る。残り時間もあと1時間ほど。「水深8メートルです。反応ありますよ」潮も流れず、風も吹かず、変わらず道糸は立ったまま。船中沈黙状態に諦めムードが漂うなか、突如として釣況が一変。まだアタリがなかった左ミヨシ1番の若林さんの竿にヒット。

**船宿information**  
外房大原港  
**富久丸**  
☎0470-62-0330  
(詳細は巻末の情報欄参照)  
▶料金=ヒラメ乗合一人1万2000円(エサ、氷付き)  
▶備考=予約乗合、5時集合。貸し竿は破損などなければ基本無料。一つテンヤマタイへも



「今年のはヒラメはすごくおいしいですよ」とおかみさん。肉厚寒ビラメを釣るなら今



▲大原のヒラメは初夏までロングランだが、大ヒラメを狙うなら今がチャンス

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!  
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

2月も後半に入ると寒さも一段落。手軽な小物でのんびり楽しむもよし、ドカンと一発大物狙いに賭けるもよし。早春の船釣りを楽しみましょう!

外房大原港発↓大原〜岩船沖  
渡りの大型を狙う絶好期  
外房大原のヒラメ活況!

本誌ABC(東京)権名義徳 Yoshinori Shimizu

**魚探にはイワシの反応が**  
1月30日、外房大原港の富久丸へと向かう。集合時間の早朝5時、番号札順に釣り座を選び、9名の釣り人が船に乗り込む。「今釣れているヒラメはいい型ばかりですよ。水深も10メートルを切る浅場ですから、引きも強いんです。ビックリしてバラしちゃうお客さんも多いですよ」とこやかに釣況

**知得! Tips and Tricks 富久丸のサービス**  
船に乗り込むと各釣り座にはゲルクッションが置かれていた。当日は船のデッキも凍り付くほどの冷え込み。直に座れば身体芯まで冷え切った状態となっていた。釣り途中にはホットドリンクのサービスも。かじかんた手指を温めながらすすのお茶はこの上ない強壮剤だ。釣り上げられたヒラメは船長自らが血抜きをし、神経絞めまで施してくれる。下船後はおかみさんがヒラメを1枚1枚ビニール袋に入れてクーラーへ。そして大船長がその上から砕いた氷を入れて、最高の状態で魚を持ち帰らせてくれる。さりげなくもこうした気遣い心遣いは何よりも勝るサービスといえよう。  
▼各釣り座に用意されるゲルクッション  
▲神経絞めをした魚は鮮度が長持ちするという

を話してくれたのは滝口義和大船長。「イワシが長く着いてくれてるおかげでいい日が続いています」と元気ハツラツの若船長の健太さん。なんだか今日はいい取材ができそう。エサの生きイワシが積み込まれスタンバイOK。5時40分、健太船長の舵取りで出船となった。港口を出て航行すること10分ほどでエンジンがスローになる。「イワシの群れは大原沖から岩船沖を行ったり来たりしています。昨日は岩船沖に群れがあったので皆そっちに向か